

佳 作

「海と芸術とくりはま」

寺崎康雄 伊藤綾香 菅原雅之

# 海の芸術とくりはま

**趣旨**  
久里浜地区は横浜市中区本庁地区、森立地区に続いて3番目の人口(13.3%)を有しています。その背景には緑・海などの豊富な自然の中に産業(教育、商業、工業)がバランスよく成り立っていることが考えられ、幅広い年齢層の人々が住みやすい環境が望まれています。しかし国勢調査の「社会的流出量」が増加傾向であり、地区内での生産年齢人口(15歳~64歳以下)の減少は地域活動の衰えを招く恐れがあり問題として考える。そこで「住民」の「久里浜地区」に対する意識向上を図ることで地域への人口流出を減少し、今の活気をこれからも続けて行くことのできるプログラムを提案する。

## コンセプト

●豊かな感性を持つアーティストを地区に招き、現在ある久里浜の魅力を意識させる作品を制作してもらい、アーティスト一体のまちづくりを提案します



住民が中心となる活性化を目指す

感じ → 考え → 創る  
住民がこの行動を起こすことにより住民が直接的に参加するプロジェクトとなる

感じ → 創る  
住民がアーティストの作品を見る事により自然からアートを感じる事が出来る

考え → 創る  
アートと地域から感じる事により住民が自分たちの居る地域について考ええる

創る → 創る  
考えたアートと地域と共に形にして自分たちの地区を創る



### インスタレーション (Installation art)

1970年代以降一般化した、絵画・彫刻・映像・写真などと並ぶ現代美術における表現手法。ギャラリーの一角、空間全体が作品であるため、鑑賞者は一点の作品を「鑑賞」するといふより、作品に全身を囲まれて空間全体を「体験」することになる。

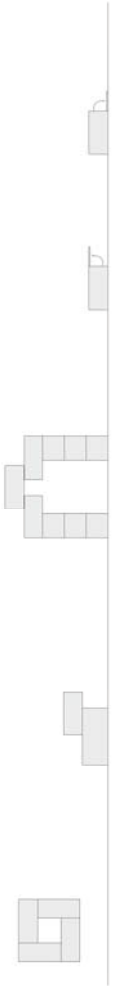
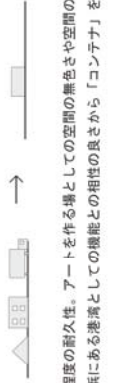
住民によって日常生活と関係のない時期は意識が低い  
久里浜 × アート  
住民生活と地域の特色が相乗である、(「テーマ」) 集、出、居、動など  
住民とアーティストが一緒に暮らす「チーム」について考える

### アーティスト・イン・レジデンス (Artist-in-residence program)

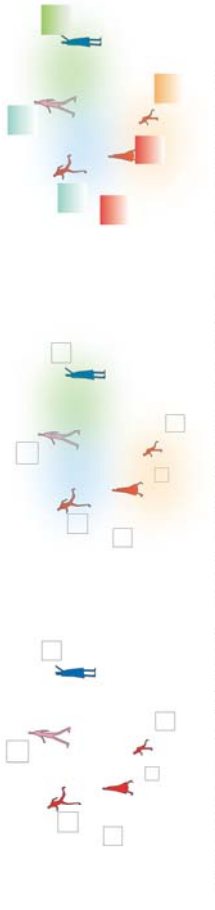
各種の芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招き、その土地に滞在しながらの作品制作を行わせる事業のことである。久里浜地区の現在ある空き家や若手のアーティストの生活の場とする。また作品制作は「創る場」にて行う。招集期間は最長でも年間であり、活動内容は「創作活動」「教育機関での臨時講師」1年に2回の「久里浜芸術祭」の計画及び準備活動。

# 街を巡る工房

住民と共同で作品制作を行う「うみの芸術祭」は、工房としての機能をもちつつ、街のいたるところで製作できる「仮設性」「移動性」が必要となる。



コンテナを組んで構成したアトリエは、組み方で「中庭」「ペランダ」「大空間」「ポーチ」などになりうる。壁面風開の方法で、「ひさし」「テラス」「ドア」「窓」になる。コンテナ内は工房機能を持たせる。「芸術祭」のとき、解体し移動することで、本格的な設備を備えた出張工房として機能し、住民と共同制作の拠点となる。



日常生活している街中を「感じながら」「観る」だけではなくアートを「創る」ことで、よりアーティストとアートを楽しむことができる。若手アーティストが行うイベントを紹介して地域住民同士でも性別、年齢を超えた交流が生まれ、アーティストと住民、アート好きな住民同士の交流が増えることに、久里浜について話し合う機会と考える機会が増えることで、「久里浜らしい」と本当に感じられるアートが創られていく。

**創る**  
小学校、中学校などの授業や地域内での体験行事を通じて「若手アーティスト」との創作活動

**感じる**  
若手アーティストによる「インテリジェント」空間。五感で感じて楽しむ。また久里浜でアートを体験することでもそれを鑑賞した住民に「久里浜」について考えてもらう。

**考える**  
若手アーティストの「工房」が立ち並ぶことで、住民が気軽に作業を見ることが出来る。

